

Graphics with Processing



2013-07 3DCGとモデリングの基礎

<http://vilab.org>

塩澤秀和

7.1 3D図形の描画

3D基本設定

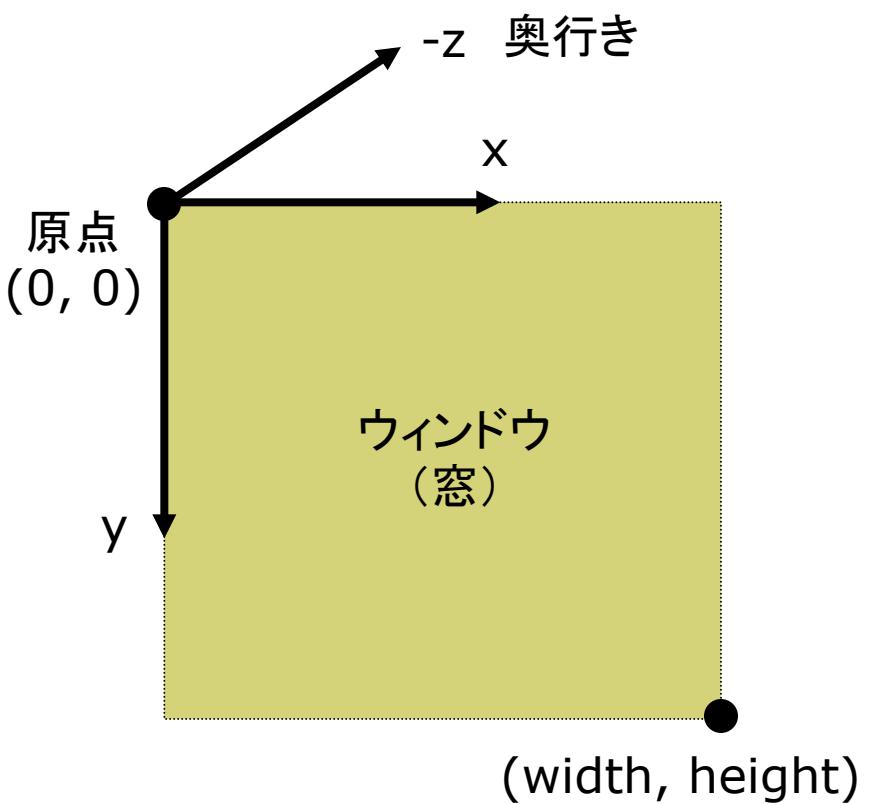
- **size(幅, 高さ, P3D)**
 - ウィンドウを3D用で開く
 - 自分のPCでうまく動かない場合は、バージョン1.5をインストールする
(PCのOpenGL対応の問題)
- **lights()**
 - 標準の照明を設定
 - `draw()`の中で最初に書く

3D基本形状

- **box(辺の長さ)**
- **box(幅, 高さ, 奥行き)**
 - 原点に立方体/直方体を描画
- **sphere(半径)**
 - 原点に球を描画
 - 通常は `noStroke()` で描く

3次元座標系(無指定時)

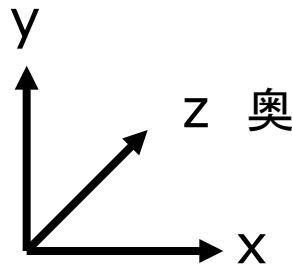
- Processingではz軸は手前方向



7.2 座標系のとり方 (p.26)

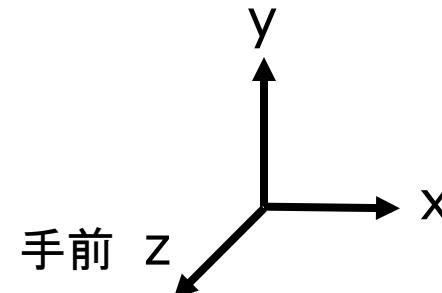
□ 左手系

- 視点座標系・CGゲーム
- DirectX



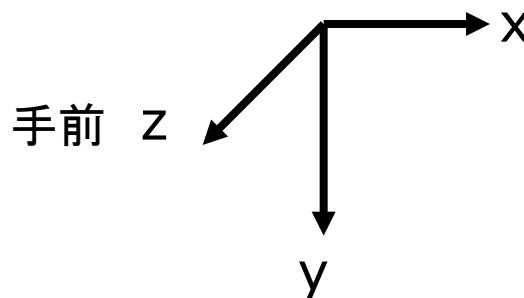
□ 右手系

- CG理論・数学・工学分野
- OpenGL



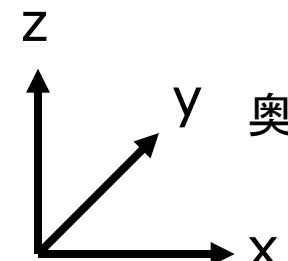
□ 左手系

- Processing



□ 右手系

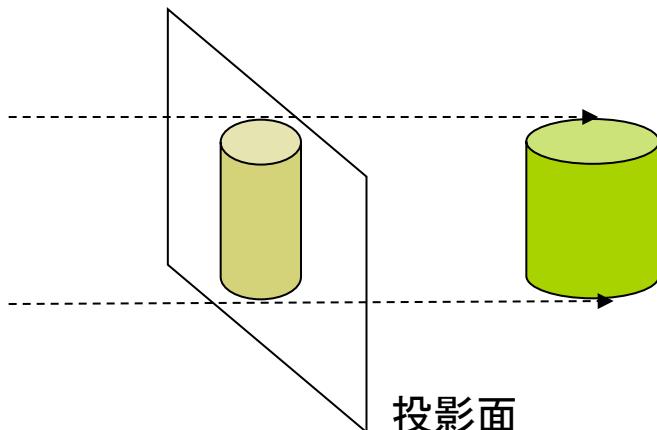
- 建築座標系



7.3 平行投影と透視投影(p.32)

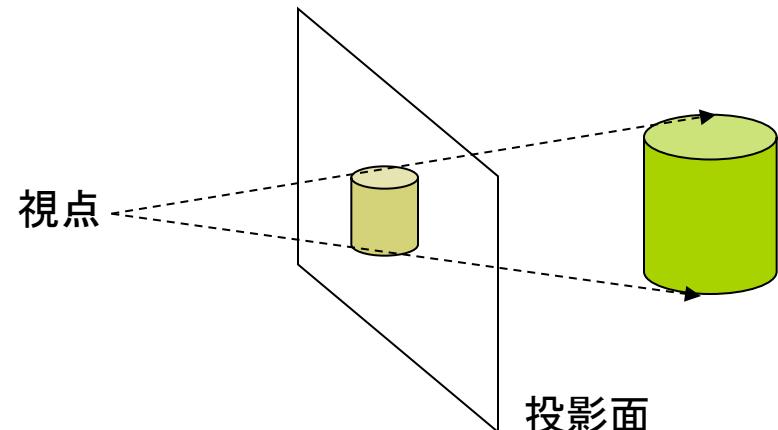
平行投影(直交投影)

- `ortho(xmin, xmax, ymin, ymax, zmin, zmax)`
 - 遠近感をつけない投影方法
 - 画面に表示するx, y, z座標の範囲(視体積)を設定
- サンプル
 - Basics (3D) → Camera



透視投影(透視図法)

- `pserspective()`
 - 近くのものを大きく、遠くのものを小さく、遠近法を使って描画する
- `perspective(fov, aspect, zNear, zFar)`
 - 視野角(画角)などを指定できる
 - 詳しくは第9回で説明



7.4 3Dでの位置設定

3Dでの位置設定

□ 座標変換を駆使せよ

- 3DCGでは、幾何変換で図形を配置する考え方が必須!!
- boxもsphereもそのときの描画座標系の原点付近に図形を描く

行列スタックの操作

□ pushMatrix()

- 変換行列(論理座標系)を一時的に退避する
- 使い方は、2次元と同じ

□ popMatrix()

- 最近保存した論理座標系を戻す
- pushとpopは必ず対にすること

3次元幾何変換

□ translate(tx, ty, tz)

- 座標系の平行移動
- 最初に $(width/2, height/2, 0)$ に原点をもってくと分かりやすい

□ scale(Sx, Sy, Sz)

- 座標系の拡大・縮小
- 原点を中心に全体が拡大

□ rotateX(θ_x)

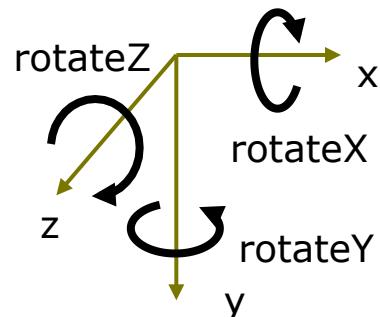
- x軸まわりの回転

□ rotateY(θ_y)

- y軸まわりの回転

□ rotateZ(θ_z)

- z軸まわりの回転
- 2次元のrotate(θ_z)と同じ



7.5 3D描画の例

// P3Dモードの例

```
void setup() {
    size(400, 400, P3D);
    noLoop();
}
```

```
void draw() {
    background(0);
```

// 標準の照明

lights();

// 透視投影

perspective();

// 原点を移動

translate(width/2, height/2, 0);

noStroke();

fill(255, 200, 200);

// 原点に半径100の球を描画

sphere(100);

// バージョン1.xのOPENGLモードの例
// 2.0からはP3DでもOPENGLモード

import processing.opengl.*;

float rot = 0.0;

OpenGL
のとき必要

```
void setup() {
    size(400, 400, OPENGL);
}
```

```
void draw() {
```

background(70);

lights(); perspective();

translate(width/2, height/2, 0);

pushMatrix();

rotateY(radians(rot++));

stroke(255, 0, 0);

fill(255, 255, 0);

box(100);

popMatrix();

}

7.6 モデリングの基礎(p.27)

モデリング

□ モデリングとは

- 3Dオブジェクト(物体)の形状を数値データの集合で表すこと
- 複雑なモデリングは専用のソフトウェアを使う(第14回に説明)

形状モデル(p.48)

□ ワイヤーフレームモデル

- 線の集合で物体を表現する

□ サーフェスモデル

- ポリゴン(多角形)の集合で物体の表面(だけ)を表す

□ ソリッドモデル

- 物体の内外を示す情報もあり、中身が詰まっているモデル

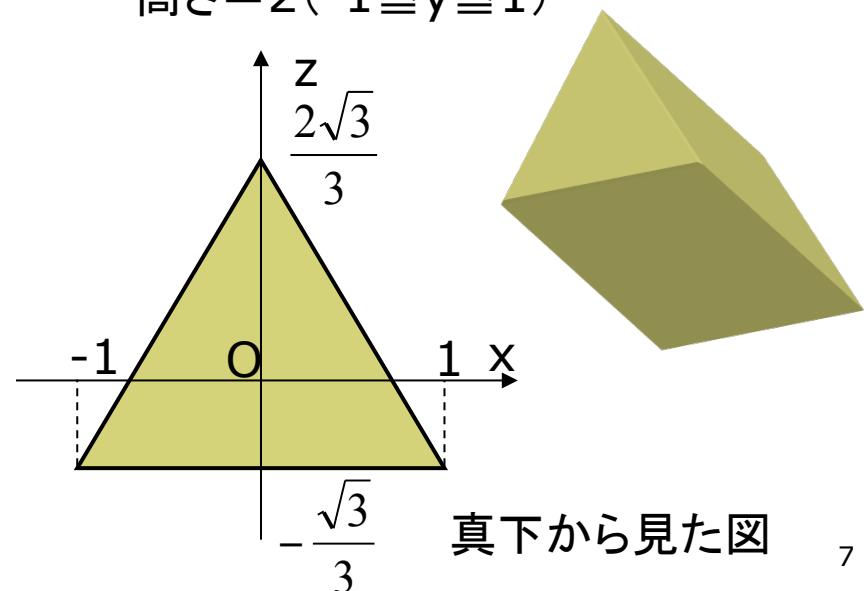
簡単なモデリング

□ ポリゴンの描画

- ポリゴンpolygon = 多角形
- 物体表面のポリゴンを描画する(beginShape～endShape)

□ 例) 三角柱

- 幅=2(-1≤x≤1), 原点に重心, 高さ=2(-1≤y≤1)



7.7 ポリゴンの描画例

prism(プリズム)
は角柱という意味

```
// 回転する三角柱を表示する
float rot = 0.0;

void setup() {
    size(400, 400, P3D);
}

void draw() {
    background(0);
    lights(); perspective();
    translate(width/2, height/2);
    pushMatrix();
        rotateX(radians(rot++));
        fill(255, 255, 0);
        // scaleで適当な大きさに拡大
        scale(30, 60, 30);
        prism3();
    popMatrix();
}
```

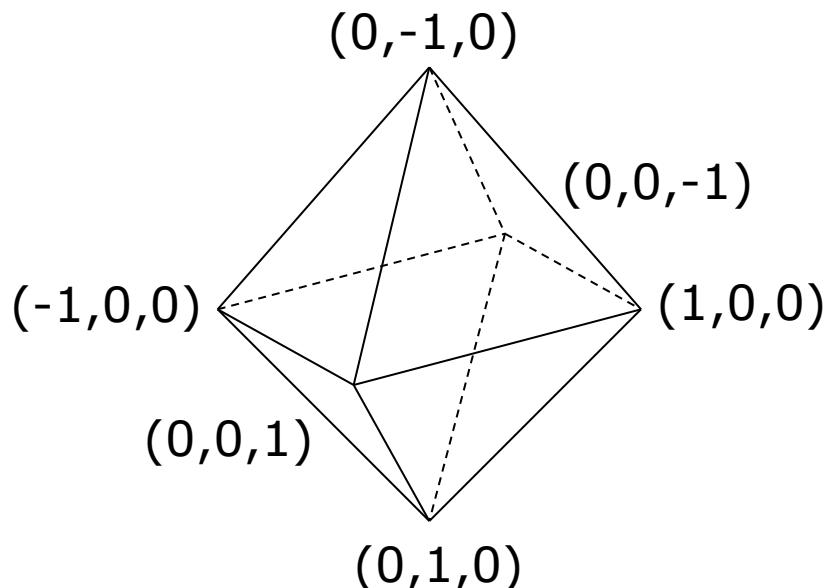
```
void prism3() {
    float g = sqrt(3) / 3.0;
    // 側面の3枚の長方形
    beginShape(QUAD_STRIP);
        vertex(1, -1, -g); vertex(1, 1, -g);
        vertex(0, -1, g*2); vertex(0, 1, g*2);
        vertex(-1, -1, -g); vertex(-1, 1, -g);
        vertex(1, -1, -g); vertex(1, 1, -g);
    endShape();
    // 底面と上面の三角形
    beginShape(TRIANGLES);
        vertex(1, -1, -g);
        vertex(0, -1, g*2);
        vertex(-1, -1, -g);
        vertex(1, 1, -g);
        vertex(0, 1, g*2);
        vertex(-1, 1, -g);
    endShape();
}
```

7.8 演習課題

課題

問1) 正八面体を描画するプログラムを作成しなさい

- 8枚の正三角形を描画する
- beginShapeでTRIANGLESか TRIANGLE_FANを用いる
- もっと凝った図形をやってもよい



$$A = \begin{bmatrix} 3.0 & 0 & 0 \\ 0 & 0.5 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \quad B = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 40 \\ 0 & 1 & 20 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

$$C = \begin{bmatrix} \cos 45^\circ & -\sin 45^\circ & 0 \\ \sin 45^\circ & \cos 45^\circ & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

問2) 《前回の復習》

2次元幾何変換A～Cについて以下の問いに答え、**A4用紙**で提出しなさい

1. 合成変換行列ABを計算しなさい
2. 変換ABの後に座標(20, 60)に点を打つと、画面のどこに表示されるか？
3. 合成変換行列BAを計算し、ABとの意味の違いを説明しなさい
4. 行列Cに対応するProcessingの命令を示しなさい(定数PIを用いてもよい)
5. 合成変換行列C²=CCを計算し、どのような変換か説明しなさい